

多文化共生のまち

妹背牛町と

ベトナム人地域おこし協力隊の歩み

妹背牛に住む人たちと意見を交わす「町政懇談会」。

席上で、町民の方たちが言いました。

「ベトナム人の支援や交流をしたいけれど、言葉が分からない」

必要だったのは、言葉の壁を解決する人材。

町は、日本人とベトナム人の橋渡し役を担う地域おこし協力隊を採用しました。

インバウンド事業ではない、生活支援を専門とする協力隊の活動は全国的にも珍しい取り組み。

技能実習生らの生活をサポートする彼女たちは流ちょうな日本語で町民の皆さんとも打ち解け、交流活動や地域振興など、その活動の幅を広げています。

今回の特集では、1人目の協力隊員が着任してから3年間の歩みを辿ります。



ベトナムに伝わるバンブーダンスの体験学習



町内の商品券を使って夕食を楽しむベトナム人



商工会女性部の研修会の講師



花を活用した環境美化活動に参加



母国の家庭料理を対面販売



町民と一緒に健康運動



妹背牛で盛んなカーリングを体験



技能実習生向けの日本語教室



町民に料理を配膳するベトナム人



ベトナム人と日本人の 橋渡し役



ファム・ティ・モさん 名前 ホー・ティ・ヌー・クインさん

ベトナム北部のニンビン市 出身地 ベトナム中部のフエ市

2年目 妹背牛に来て 3年目

公衆トイレがきれい、ごみ処理方法 驚いたこと カラスが大きい

味噌ラーメン、寿司、刺身 日本の好きな食べ物 ラーメン、アイスクリーム

落ち着く、食べ物がおいしい 妹背牛の良いところ 広い青空、親切な方たち

ベトナムの魅力や習慣 伝えたいこと ベトナム語や食文化、伝統的な遊び

・日本語能力試験N2 資格 ・日本語能力試験N2

・食品衛生責任者

・普通自動車運転免許証

ベトナム人が住みやすい地域に――

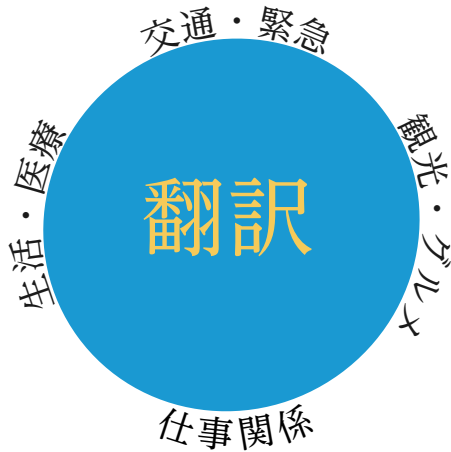
人口約2700人の妹背牛町は、町内の民間企業（製造業）2社に27人（10月末現在）のベトナム人が働き、地域で生活しています。技能実習生の受け入れ当初は6人だった外国人労働者は、2021年に40人を突破。町の人口減少が進む一方、外国人の増加を背景に、ベトナム人に対する町民の皆さんの関心も高まりました。加えて、高齢者が多い地域。ベトナム人の大半が20代で、若い世代との交流を望む声も増えました。そんな要望を受け、町は2020年4月、ベトナム人の言葉や生活をサポートする地域おこし協力隊を採用。町民とベトナム人のコミュニケーション

ションを深める人材を確保しました。

旭川福祉専門学校（上川管内東川町）で日本語を学んだホー・ティ・ヌー・クインさんが1人目の協力隊として着任。翌年の21年に、同じ学校を卒業したファム・ティ・モさんが町の協力隊員になり、2人体制で活動しています。

ベトナムの大学で英語も学んだヌーさんは、3カ国語が話せるトリリンガル。モさんは日常会話のほか、尊敬語や謙譲語の使い分け、日本のことわざや四文字熟語を覚え、俳句も勉強していました。日本語に堪能な彼女たち2人は「ベトナム人の住みやすい町づくりが目標」と声をそろえます。

言葉の壁



ごみの分別方法



職場の安全確認



町内マップ



交通ルール

妹 背牛町内で生活するベトナム人にとって、一番の困り事は日本語です。交通ルールや緊急時の連絡先をはじめ、ごみの分別、健康診断、製造業の安全管理、観光マップに至るまで、日本語で書かれた内容を協力隊員がベトナム語に翻訳し、技能実習生らが住む研修寮に配っています。

新型コロナウイルスス禍では、町が配付した不織布マスクや生活応援の地元商品券の受け取り方、ワクチンの接種方法など、町の取り組みに応じた随時、必要な情報をベトナム語に翻訳しています。また、協力隊員たちは、役場に訪れたベトナム人の行政手

続きをサポート。日本語で書かれた用紙に氏名や住所など、必要箇所の記入を手伝います。公共・医療施設の窓口対応では、体調を崩して診療所へ向かうベトナム人に同行することも。医療スタッフとの間に入って通訳し、症状などを伝えることで診察までの時間を短縮させます。

町内の生活に馴染めるよう、実習生らの要望に応えた活動も。町民とのコミュニケーションを深めたいベトナム人を対象に日本語勉強会を開催したほか、職場の同僚と食事を楽しむ飲食店のメニューも翻訳し、暮らしやすい環境づくりを続けています。



協力隊員が講師を務めた日本語勉強会



飲食店のメニューをベトナム語に翻訳



役場の行政手続きを2人がサポート

ベトナムキッチンに

いらっしやいませー！



～ベトナム風の揚げ春巻き～

町民とのコミュニケーションツール

母国の郷土料理

町内のイベント時に協力隊員が腕を振るう揚げ春巻きは、豚ひき肉や春雨、ニンジン、シイタケなどの具をライスペーパーに包んで揚げたベトナムの郷土料理です。

協力隊員の母国では、日本のお正月に当たる特別な家族行事に振る舞われるそう。

カリッと揚げた香ばしさとジューシーな味わいが町民の皆さんに好評で、2人は「手軽に食べられておいしいです」（ヌーさん）、「ビールにもよく合います」（モさん）と、おすすめします。

日本人向けに試作

協力隊員は、ベトナムの料理や食文化を広く知ってもらうことで、町民の皆さんと交流を深めるイベントを開催しています。

活動が制限された新型コロナウイルス禍の期間を利用して、日本人向けのメニューを試作。日本にある食材や調味料が代用できるか確認しながら、味付けにもアレンジを加えました。

そうして出来上がった看板メニューが、揚げ春巻きです。

地域振興にも

「ベトナムキッチン」と銘打った企画は、町内中心部ににぎわいをつくる「遊歩市」や、そば打ち愛好者の新そばイベントに合わせ、屋台を出店しています。

販売を重ねるごとに揚げ春巻きのリピーターも増加。1時間を待たずに完売することもあり、イベントを盛り上げる地域振興に一役買っています。

接客の仕事は、町民の皆さんと交流を深めるコミュニケーションツールの一つ。協力隊員のベトナムキッチンに技能実習生らも助っ人として参加し、イベント当日は、日本人とベトナム人が集う国際色豊かな雰囲気には満ちています。

本番前にベトナム料理を試作する協力隊員



ベトナムキッチンには、技能実習生らが助っ人に

ケーキを囲む3人の写真は、友だちの誕生日を祝うヌーさんから「バースデーケーキの作り方を教えてください」と、頼まれた時のワンシーンです。

長男が海外留学をしていることもあり、彼女たちに親近感を持っていました。何度か食事をするうちに仲良くなり、今回の依頼を受けた時は、お菓子作りが好きな私の出番だと思いました。

彼女たちが妹背牛町に来てから、ベトナム人と接する機会が増えて、親しみやすい印象



右からヌーさん、ケーキを持つ技能実習生、東さん

に変わりました。

ヌーさんは「おとなしそうに見えて、自分の意見や目標をしっかりと持っている人」、モさんは「周囲の雰囲気をも明るくする愛きようがあつて、歌も上手」。

対照的な性格の2人に共通することは、とにかく頑張り屋さん。これからは彼女たちを応援していきます。



1区の東照美さん

また一緒に遊んでネ！

元気なモさんと一緒にカレーライスを作った時は、楽しくて初対面でも仲良くなれました。

作り終わった後は鬼ごっこをして遊びました。モさんは足が速くて、逃げるのが上手でした（笑）



妹背牛温泉ペペルで働く深澤さん

娘みたいでかわいい！

いつもレストランにご飯を食べに来てくれます。今年8月、休みを合わせてくれたモさんの自宅でランチ。作ってくれた揚げ春巻きを食べながら「もうこんな時間」と思うまで世間話で盛り上がりました。



妹背牛小学校4年生のまおちゃんとゆうりちゃん



フレッシュマートしんたにの新谷さん

たくさんのお買い上げありがとうございます！

食材や日用品をよく買いに来てくれます。ハキハキとしたあいさつで、礼儀正しいです。商品の種類やお会計の方法などを彼女たちが教えてくれるのでほかのベトナム人も自転車のかがいっぱいになるまで買ってくれます。

ヌーさん

・薄味を覚えてくれた

ラーメン店の橋本さん

日本に来て食べたラーメンの中で一番好きなお店が、妹背牛町にある「らーめんばにはつ分家」です。

薄味が好きなのは、いつもあっさりとした塩ラーメンを注文。味の濃さを「薄め」でお願いしていました。

3回目の来店を迎えたある日、お店の橋本さんが「いらっしゃいませ。塩ラーメンの薄味ね」と、声をかけてくれました。私の顔と好みの味を覚えていてくれたことに驚き、感動しました。

それぞれの好みに合わせてくれる味付けはもちろん、優しい橋本さんの気遣いも、私が日本で一番おいしいラーメン店と思った理由です。



ばにはつの橋本さん



あっさりとした塩ラーメン

・初めての手持ち花火

誘ってくれたのは近所の人たち



パチパチと音を立てて光る手持ち花火が、とてもきれいでした。

妹背牛町に来て3カ月が経ったころ、近所の人たちが花火に誘ってくれました。職場の皆さんと一緒にきれいな手持ち花火や打ち上げ花火を楽しみました。

ベトナムでは2020年まで、大きな花火大会などを除いて、個人的に花火をすることは法律で禁止されていました。危険なため、花火が好きでも自分たちで楽しむことはできませんでした。

あの時、花火に誘ってくれて、初めて遊んだ時の思い出は、今でも忘れられません。花火をきっかけに、初めて知り合った人たちとも仲良くなりました。

モさん

・いろいろなことに挑戦できた1年でした

皆さん、こんにちは！モです。

今年を振り返ってみると、様々なことに挑戦したい私にとって、充実した1年でした。妹背牛町での楽しい思い出やたくさんの出来事があり、今回の特集では、その中でも特に印象に残った活動を紹介したいと思います。

妹背牛町の取れたての新米、無添加のトマトジュース、大黒屋菓子舗さんのおいしいお菓子などをもっとたくさんの人たちに知ってもらいたい！そんな目標を立てて、10月23日に札幌で行われた秋の美味しいマルシェというイベントに農政課の皆さんと参加しました。

牛の着ぐるみを着て接客を担当すると、お客さんが喜んで買いに来てくれたことがうれしかったです。

抽選会で当選者を発表する役割も担当。当たった人にプレゼントを渡すと、会場はとても盛り上がりました。

妹背牛のファンを増やすため、今回のように皆さんと協力したいと思います。経験したことがない体験の機会を与えてくれたことに感謝して、来年もまた、新しい活動に挑戦したいです。



来場した子どもと記念撮影



抽選会で当選者を発表